

令和7年度(2025年度)全国学力・学習状況調査 結果概要

1 調査の概要

(1)目的	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
(2)実施日	令和7年4月14日(月)～17日(木)
(3)対象	・小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部の第6学年児童 ・中学校、義務教育学校後期課程及び特別支援学校中学部の第3学年生徒
(4)内容	①児童生徒:教科調査(国語、算数・数学、理科)/質問調査(オンライン実施) ②学 校:質問調査(オンライン実施) ※中学校理科はCBT(Computer Based Testing)にて実施
(5)本県の参加状況	・小学校 325校(約15,000人) ・中学校 164校(約14,000人) (熊本市を含む公立小中学校等)

2 本県の調査結果の概要

(1)教科調査の結果 上段は平均正答数/問題数、下段()は平均正答率

学年		小学6年			中学3年		
教科区分		国語	算数	理科	国語	数学	理科 (IRTスコア)※
R7	本県	9.3/14問 (66%)	8.8/16問 (55%)	9.7/17問 (57%)	7.4/14問 (53%)	6.6/15問 (44%)	497
	全国	9.4/14問 (66.8%)	9.3/16問 (58.0%)	9.7/17問 (57.1%)	7.6/14問 (54.3%)	7.2/15問 (48.3%)	503

※IRT(項目反応理論:Item Response Theory)とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

※IRTスコアとは、各設問の正誤パターンの状況等から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

各教科のポイント (○成果 ●課題)

- 【国語】
○調べたことが読み手に伝わるように、自分の考えを書くこと。
●複数の資料を読んで、疑問をもったことについて調べ、分かったことを基に自分の考えをまとめること。
- 【算数・数学】
●数量の関係について、適切なグラフを選択し、言葉や数を使って説明すること。
●「素数」や「外角」、「相対度数」などの数学の用語の意味を理解すること。
- 【理科】
○実験の結果や考察を基に、条件を変えた場合の実験の結果を予想して、説明すること。
●複数の実験の結果等を関連付けて、自然の法則や仕組みについて考え、説明すること。

(2) 質問調査の結果

質 問 事 項		小学校		中学校	
		本県	全国	本県	全国
自己有用感等	将来の夢や目標を持っていますか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	84.1% (+1.0)	83.1%	68.5% (+1.0)	67.5%
	学校に行くのは楽しいと思いますか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	89.1% (+2.6)	86.5%	88.1% (+2.0)	86.1%
	先生は、あなたのよいところを認めてくれている と思いますか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	92.2% (±0)	92.2%	92.4% (+0.2)	92.2%
主体的・対話的で深い学び	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の 考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立て などを工夫して発表していましたか (「発表していた」+「どちらかといえば、発表していた」の割合)	61.5% (-7.1)	68.6%	52.5% (-10.5)	63.0%
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分 から取り組んでいましたか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	76.5% (-3.8)	80.3%	70.9% (-6.8)	77.7%
	国語の授業の内容はよく分かりますか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	83.3% (+0.5)	82.8%	72.3% (-4.7)	77.0%
授業の理解度	算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	77.2% (-1.1)	78.3%	63.0% (-7.3)	70.3%
	理科の授業の内容はよく分かりますか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	88.7% (-0.2)	88.9%	65.2% (-6.2)	71.4%
学校	近隣等の中学校(小学校)と、教科の教育課程の接 続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程 に関する共通の取組をどの程度行いましたか (「よく行った」+「どちらかといえば、行った」の割合)	76.7% (+11.4)	65.3%	80.5% (+8.8)	71.7%

質問調査のポイント

【児童生徒質問】

- 「学校に行くのは楽しい」等の自己有用感・幸福感等に関する回答が、全国平均を上回っている。
- 「主体的・対話的で深い学び」に関する項目は、全国平均を下回っている。
- 主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高い。

【学校質問】

- 近隣の小中学校で共通の目標を設定する等、小中の円滑な接続に向けた取組を行っている学
校の割合が、全国平均を上回っている。

3 今後の取組

- 県や市町村教育委員会、小中学校の代表者からなる「学力向上推進本部」を令和7年8月22日
(金)に実施し、課題の改善に向けて今後の方向性を協議します。
- 学力向上推進本部の協議結果を踏まえて、小中学校及び義務教育学校の校長等を対象にした
「全国学力・学習状況調査の結果及び今後の取組に関する説明会(オンライン)」を令和7年8月
28日(木)に開催します。

担当 熊本県教育庁市町村教育局義務教育課
課長 梅本(57840) 審議員 平野(57843)
熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課
155 課長 横川(57440) 審議員 折尾(57442)